

令和7年度 シラバス

教科名	芸 術	科目名	音楽Ⅰ（ 1 年次 ）	単位数	2
授業形態	実技・発表・創作及び鑑賞				
選んでほしい生徒	音楽についての知識を深めることや、歌唱や様々な楽器の演奏に興味があること。				
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 北条高校校歌 斉唱・合唱 鑑賞 ギター 【2学期】 斉唱・合唱 鑑賞 三線 リズムアンサンブル実技及び創作 【3学期】 斉唱・合唱 鑑賞		・校歌を習得する。 ・中学校での内容を展開しながら、さらに音楽の基礎を学習する。 ・ギターに触れ、コード弾きへの基礎を作る。 ・歌唱の演奏技術を伸ばし、様々な管弦楽曲の鑑賞により感性を高める。また、グループ活動を通して、創作活動に挑戦し、作曲について学習する。三線に触れ、日本音楽に親しむ。 ・斉唱・合唱・鑑賞・ギターなどを通して、音楽に関する総合的な理解を深める。 ・一年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作で表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、定期考査、実技試験、授業への取組、提出物を総合的に判断して評価する。				
学習のアドバイス	1 休まず授業に出席し、様々な楽器演奏や歌唱などを体験する。 2 演奏では自分なりの表現を大切にし、実技試験で発揮したい。 3 定期考査では、筆記試験も実施する。プリントはファイルに綴じて学期末に提出するので、ファイルの整理をしっかりと行うこと。				
教材費	1,057 円（税込み価格、「高校生の音楽Ⅰ」「ザ・ベーシックス・オブ・ミュージック 2 改訂版」） 別途 三線レンタル代 5,500 円				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習とは違って、音楽を幅広く学習する。				

令和7年度 シラバス

教科名	芸 術	科目名	音楽Ⅱ（ 2年次 ）	単位数	3
授業形態	講義、表現活動（歌唱、器楽、創作）・鑑賞活動				
選んでほしい生徒	音楽Ⅰを履修した者で、さらに広く音楽についての知識を深めようとする意欲があること、歌唱や様々な楽器の演奏に興味があること。				
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽の見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
身に付けてほしい学力	1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 2 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 3 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 ギター 弾き語り 世界の歌と楽器 アジアの音楽 各種アンサンブル 【2学期】 各種アンサンブル 日本の音楽 オペラ ミュージカル ハンドベル 【3学期】 イタリア歌曲 ドイツリート シャンソン 弾き語り 1年間のまとめ		・音楽Ⅰでの内容を発展させながら、更に音楽の基礎を学習する。 ・歌唱、器楽、創作の活動を通し、表現技術を高める。 ・各種アンサンブルの活動を通し、相互理解や相互評価を大切にして感性を高める。 ・様々な地域の音楽文化に触れ、鑑賞能力を高める。 ・音楽に関する総合的な理解を深め、1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作で表している。		・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	上記の観点を踏まえ、定期考査、実技試験、授業への取組、提出物を総合的に判断して評価する。				
学習のアドバイス	1 実技を伴う内容が多いので、休まずに出席し様々な表現方法を意欲的に習得してほしい。 2 表現や鑑賞の活動から感じたことを積極的に伝え合い、相互批評する力を高めてほしい。 3 定期考査では、実技試験、筆記試験を実施するので、ファイル整理をしっかりと行うこと。				
教材費	335円（税込み、音楽Ⅱ Tutti+ 教育出版）				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習とは違って、音楽を幅広く学習する。				

令和7年度 シラバス

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅲ（3年次）		単位数	3
授業形態	講義、表現活動（歌唱、器楽、創作）、鑑賞活動					
選んでほしい生徒	音楽Ⅱを履修したもので、さらに広く音楽や音楽文化についての知識を深めようとする意欲があること。歌唱や様々な楽器の演奏、鑑賞活動に興味があること。					
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目標とする。					
身に付けてほしい学力	1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 2 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。 3 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					
学習計画	単元・教材			学習のあらまし		
	【1学期】 ポップスの歌唱 日本の音楽、世界の音楽 各種アンサンブル 【2学期】 各種アンサンブル 芸術歌曲、オペラ 【3学期】 各種アンサンブル 演奏発表会 1年間のまとめ			・音楽Ⅱでの内容を発展させながら、さらに音楽の基礎能力を高める。 ・歌唱、器楽、創作の活動を通し、表現秘術を高める。 ・各種アンサンブルの活動を通し、相互理解や相互評価を大切にして感性を磨く。 ・様々な地域の音楽文化の価値や役割を探り、鑑賞能力を高める。 ・音楽に関する総合的な理解を深め、1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作で表している		・音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。		・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	上記の観点を踏まえ、定期考査、実技試験、授業への取組、提出物を総合的に判断し評価する。					
学習のアドバイス	1 実技を伴う内容が多いので、休まずに出席し様々な表現方法を意欲的に習得してほしい。 2 表現や鑑賞の活動から学んだことを積極的に伝え合い、相互批評する力を高めてほしい。 3 定期考査では、実技試験、筆記試験を実施するので、プリントの整理をしっかりと行うこと。					
教材費	355円（税込み価格、「Joy of Music」教育芸術社）					
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習とは違って、音楽を幅広く学習する。					

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	音楽理論（2年次）	単位数	2
授業形態	講義形式での授業展開				
選んでほしい生徒	音楽Ⅰを履修した者で、音楽での受験を考えている場合は、2、3年次と継続履修することが望ましい。音楽の基礎的な理論に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。				
科目の目標	音楽理論の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付ける。 2 音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。 3 音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 音の長さや高さ、記号と用語 音程、音階 練習問題 【2学期】 音階、和音、西洋音楽の作曲家 楽器の分類、声の種類 練習問題 【3学期】 コード・ネーム、日本の楽器 形式、音楽史、総合演習問題 1年間のまとめ		・楽譜の仕組みについて、基礎的な理論を学ぶ。 ・音楽の仕組みについて、音程、音階、和声問題の解法を身に付けていく。 ・音楽史や楽器、音楽の形式や形態など、幅広い知識を身に付けていく。 ・内容によっては、鑑賞や実技形式の学習も行う。 ・総合的な演習問題を行う。 ・1年間のまとめをする。		
評価の観点・ 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身につけている。	・音楽理論に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽表現を高めたり音楽作品に対する解釈や価値判断などを深めたりしている。	・主体的に音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、定期考査、授業への取組、提出物を総合的に判断して評価する。				
学習の アドバイス	1 毎時間の進度が速いので、休まず授業に出席して知識の習得に努めたい。 2 定期考査では、範囲が広いため、日ごろから予習と復習に努めたい。 3 理論に基づいた音楽に対する価値や評価を積極的に言葉にし、表現活動に活用できるようにしたい。				
教材費	1,027円（税込み、改訂 音楽通論 教育芸術社） 各自で五線符を準備すること。				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習が主であるが、それ以外の生徒の選択も可能である。				

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	音楽理論（3年次）	単位数	2
授業形態	講義形式での授業展開				
選んでほしい生徒	音楽Ⅰを履修した者で、音楽での受験を考えている場合は、2、3年次と継続履修することが望ましい。音楽の基礎的な理論に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。				
科目の目標	音楽理論の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付ける。 2 音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。 3 音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 音律、音楽の三要素、音名、 演奏記号と用語 練習問題		・演奏に必要な基礎的な理論や用語を学び、 楽譜の仕組みを理解する。		
	【2学期】 音程、音階と調 練習問題		・音程の名称を学び、民族的音階、転調、移 調、調判定について学ぶ。		
	【3学期】 和音と和声 1年間のまとめ		・和音の記譜法、和声進行について学ぶ。 ・総合的な演習問題を行い、1年間のまとめ をする。 ※内容によっては、鑑賞や実技形式の学習も 行う。		
評価の観点・ 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身につけている。	・音楽理論に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽表現を高めたり音楽作品に対する解釈や価値判断などを深めたりしている。	・主体的に音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、定期考査、授業への取組、提出物を総合的に判断して評価する。				
学習の アドバイス	1 毎時間の進度が速いので、休まず授業に出席して知識の習得に努めたい。 2 定期考査では、範囲が広いため、日ごろから予習と復習に努めたい。 3 理論に基づいた音楽に対する価値や評価を積極的に言葉にし、表現活動に活用できるようにしたい。				
教材費	3,421円（税込み、新版 楽典 音楽家を志す人のための 音楽之友社） 各自で五線符を準備すること。				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習が主であるが、それ以外の生徒の選択も可能である。				

令和 7 年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	音楽史（3年次）	単位数	2
授業形態	講義形式での授業展開				
選んでほしい生徒	音楽Ⅰを履修していなくても履修できる。音楽での受験を考えている場合は履修することが望ましい。音楽が発展してきた歴史に興味・関心があることが望ましい。				
科目の目標	音楽史の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解する。 2 多様な音楽の文化的価値について考える。 3 音楽に関する伝統と文化を尊重する態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 音楽史のオリエンテーション 西洋音楽史（古代～バロック） 【2学期】 西洋音楽史（古典派～ロマン派） 日本の音楽史 【3学期】 西洋音楽史（19世紀後半～20世紀）		・西洋音楽史の流れについて理解する。 ・バロックの作曲家及び時代背景を理解していく。 ・古典派・ロマン派の多くの作曲家の個性、時代背景を理解していく。 ・日本の音楽の歴史について理解していく。 ・印象派や近・現代の作曲家の特徴、時代背景を理解していく。 ・1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解している。	・多様な音楽の文化的価値について考えることができる。	・主体的・協働的に音楽史の学習活動に取り組もうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、定期考査、授業への取組、提出物等を総合的に判断し評価する。				
学習のアドバイス	1 音楽史を時代順に学習するので、休まないことを心掛けたい。 2 作曲者や作品を理解し、感想においては自分なりの言葉を使うことを大切にしたい。 3 定期考査では、学習した内容をしっかりと復習しておきたい。				
教材費	913円（税込み、音楽史を学ぶ 教育芸術社）				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽系への進学を考えている生徒に限らず、音楽を愛好する生徒が履修できるような科目になっている。				

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	ソルフェージュ（2年次）	単位数	2
授業形態	視唱、視奏、聴音の実技演習が中心、必要に応じて講義形式で行う。				
選んでほしい生徒	音楽Ⅰを履修した者で、音楽での受験を考えている場合は、2・3年次と継続履修することが望ましい。音や音楽の要素を正しくとらえることに関心があり、意欲的に学ぶことができる。				
科目の目標	ソルフェージュに関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付けるようにする。 2 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。 3 音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にする態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 音名、音階、拍子 二度音程、三度音程 視唱、視奏、聴音		・楽譜の基礎的な仕組みについて学習する。 ・初歩的な視唱、視奏、聴音を通して、読譜能力の基礎を固める。		
	【2学期】 四度音程、五度音程、 リズムアンサンブル 視唱、視奏、聴音		・新曲視唱、視奏の能力を高める。 ・アンサンブル演習を取り入れ、実践的な能力を高める。		
	【3学期】 六度音程、七度音程 三連符、声楽アンサンブル 視唱、視奏、聴音、1年間のまとめ		・さらに難度の高い課題に取り組み、総合的なソルフェージュ能力の育成を図る。 ・1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・ 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ソルフェージュに関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めているとともに、視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付けている。	・視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形づくっている要素の働きやその効果などについて考えられている。		・音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習に、主体的に取り組もうとしている。	
	上記の観点を踏まえ、定期考査、実技試験、提出物、授業態度を総合的に判断して評価する。				
学習の アドバイス	1 実技演習が中心であるため、休まず授業に出席して能力の向上に努めたい。 2 自己評価や相互評価を積極的に行い、言葉にして伝えることで、感性を高めたい。 3 定期考査では実技と筆記による試験を実施するため、学習した内容をまとめておくこと。				
教材費	880円（税込み、コールユーブンゲン 大阪開成館発行） 各自で五線譜を準備すること。				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習が主であるが、それ以外の生徒の選択も可能である。				

令和 7 年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	ソルフェージュ（3年次）	単位数	2
授業形態	視唱、視奏、聴音の実技演習が中心、必要に応じて講義形式で行う。				
選んでほしい生徒	音楽Ⅰを履修した者で、音楽での受験を考えている場合は、2・3年次と継続履修することが望ましい。音や音楽の要素を正しくとらえることに関心があり、意欲的に学ぶことができる。				
科目の目標	ソルフェージュに関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付けるようにする。 2 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。 3 音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にする態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 音名、音階、拍子 二度、三度、四度、五度音程 視唱、視奏、聴音		・楽譜の基礎的な仕組みについて学習する。 ・初歩的な視唱、視奏、聴音を通して、読譜能力の基礎を固める。		
	【2学期】 六度、七度音程、和音 リズムアンサンブル 視唱、視奏、聴音		・新曲視唱、視奏の能力を高める。 ・アンサンブル演習を取り入れ、実践的な能力を高める。		
	【3学期】 調の関係、終止 声楽アンサンブル 視唱、視奏、聴音、1年間のまとめ		・さらに難度の高い課題に取り組み、総合的なソルフェージュ能力の育成を図る。 ・1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・ソルフェージュに関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めているとともに、視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付けている。	・視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を総合的に働かせ、音楽を形づくっている要素の働きやその効果などについて考えられている。	・音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習に、主体的に取り組もうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、定期考査、実技試験、提出物、授業態度を総合的に判断して評価する。				
学習のアドバイス	1 実技演習が中心であるため、休まず授業に出席して能力の向上に努めたい。 2 自己評価や相互評価を積極的に行い、言葉にして伝えることで、感性を高めたい。 3 定期考査では実技と筆記による試験を実施するため、学習した内容をまとめておくこと。				
教材費	880円（税込み、コールユーブンゲン 大阪開成館発行） 各自で五線譜を準備すること。				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習が主であるが、それ以外の生徒の選択も可能である。				

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	声 楽（2年次）	単位数	2
授業形態	実技演習、発表が中心の授業展開 必要に応じて講義、鑑賞を含む				
選んでほしい生徒	声楽（歌うこと）に興味・関心があり、意欲的に学ぶことができる者。 特に、音楽系または保育系進学を考えている者。 音楽系での受験を考えている場合は、2、3年次と継続履修することが望ましい。				
科目の目標	声楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
身に付けてほしい学力	1 楽曲の表現内容を理解するとともに、創造的に歌唱表現するために必要な声楽の技術に付けるようにする。 2 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。 3 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 呼吸法と発声法の基礎 コンコーネ50番練習曲（1～5番より） イタリア古典歌曲 【2学期】 コンコーネ50番練習曲（6～13番より） 歌曲またはアリア 声楽アンサンブル 【3学期】 コンコーネ50番練習曲（15～17番より） ア・カペラ、日本歌曲 1年間のまとめ		・コンコーネの歌唱を通して、基礎的な歌唱法等についての理解を深める。 ・イタリア古典歌曲などの歌唱を通して、声楽の技術高めるとともに、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する姿勢を身に付ける。 ・アンサンブル活動を通して、演奏の共有や相互評価を積極的に行い、感性を高める。 ・1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている。	・声楽に関する専門的な知識や技能を働かせ、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができる。	・主体的に音楽性豊かな表現を追求しようとしている。		
	上記の観点を踏まえ、実技試験、授業への取組、活動記録を総合的に判断して評価する。				
学習のアドバイス	1 実技演習が中心であるため、休まず授業に出席して能力の向上に努めたい。 2 自己評価や相互評価を積極的に行い言葉にして伝えることで、感性を高めたい。 3 定期考査では発表形式の実技試験とレポート提出を実施するため、学習した内容をまとめておくこと。				
教材費	1, 100円（税込み、全音楽譜出版 コンコーネ50番）				
その他	何かの検定につながることはない。				

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	声 楽（3年次）	単位数	2
授業形態	実技演習、発表が中心の授業展開 必要に応じて講義、鑑賞を含む				
選んでほしい生徒	声楽（歌うこと）に興味・関心があり、意欲的に学ぶことができる者。 特に、音楽系または保育系進学を考えている者。 音楽系での受験を考えている場合は、2、3年次と継続履修することが望ましい。				
科目の目標	声楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
身に付けてほしい学力	1 楽曲の表現内容を理解するとともに、創造的に歌唱表現するために必要な声楽の技術を身に付けるようにする。 2 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。 3 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 呼吸法と発声法の基礎 コンコーネ50番練習曲（1～7番より） イタリア古典歌曲 【2学期】 コンコーネ50番練習曲（11～16番より） 歌曲またはアリア ミュージカル 【3学期】 コンコーネ50番練習曲（復習） ア・カペラ 1年間のまとめ		・コンコーネの歌唱を通して、基礎的な歌唱法等についての理解を深める。 ・イタリア古典歌曲などの歌唱を通して、声楽の技術高めるとともに、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する姿勢を身に付ける。 ・アンサンブルや舞台音楽に関する活動を通して、演奏の共有や相互評価を積極的に行い、感性を高める。 ・1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている。	・声楽に関する専門的な知識や技能を働かせ、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができる。	・主体的に音楽性豊かな表現を追求しようとしている。		
	上記の観点を踏まえ、実技試験、授業への取組、活動記録を総合的に判断して評価する。				
学習のアドバイス	1 実技演習が中心であるため、休まず授業に出席して能力の向上に努めたい。 2 自己評価や相互評価を積極的に行い言葉にして伝えることで、感性を高めたい。 3 定期考査では発表形式の実技試験とレポート提出を実施するため、学習した内容をまとめておくこと。				
教材費	1, 100円（税込み、全音楽譜出版 コンコーネ50番）				
その他	何かの検定につながることはない。				

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	器 楽（2年次）	単位数	4
授業形態	実技演習、発表が中心の授業展開 必要に応じて講義、鑑賞を含む。				
選んでほしい生徒	音楽での受験を考えている場合は履修することが望ましい。また、保育系進学希望でピアノの実技学習未経験者も履修することが望ましい。 上記に当てはまらないが、器楽に興味・関心があり、意欲的に学ぶことができる者の履修も可能である。				
科目の目標	器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。 2 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。 3 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 器楽演奏の基礎 楽曲分析のための基礎知識 練習曲、小品 【2学期】 練習曲、小品 効果的な音楽表現と技術 器楽アンサンブル 【3学期】 楽曲理解と表現方法 1年間のまとめ		・選択した楽器の特徴や基礎的な演奏法を学ぶとともに、譜読みの能力を身に付ける。 ・練習曲や小品の演習を通して、器楽演奏の技術を高めるとともに、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する姿勢を身に付ける。 ・アンサンブル活動を通して、演奏の共有や相互評価を積極的に行い、感性を高める。 ・1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・楽曲の表現内容について理解を深めているとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。	・器楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができている。	・音楽性豊かな表現を追求し、主体的に学習に取り組もうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、実技試験、授業への取組、活動記録を総合的に判断して評価する。				
学習のアドバイス	1 実技演習が中心であるため、休まず授業に出席して能力の向上に努めたい。 2 自己評価や相互評価を積極的に行い言葉にして伝えることで、感性を高めたい。 3 定期考査では発表形式の実技試験とレポート提出を実施するため、学習した内容をまとめておくこと。				
教材費	2, 0 0 0円程度（選択した楽器の演習に必要な楽譜を各自で購入する。）				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習が主であるが、それ以外の生徒の選択も可能である。				

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	器 楽（3年次）	単位数	4
授業形態	実技演習、発表が中心の授業展開 必要に応じて講義、鑑賞を含む。				
選んでほしい生徒	音楽での受験を考えている場合は履修することが望ましい。また、保育系進学希望でピアノの実技学習未経験者も履修することが望ましい。 上記に当てはまらないが、器楽に興味・関心があり、意欲的に学ぶことができる者の履修も可能である。				
科目の目標	器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。 2 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。 3 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 器楽演奏の基礎 楽曲分析のための基礎知識 練習曲、小品 【2学期】 練習曲、小品 効果的な音楽表現と技術 器楽アンサンブル 【3学期】 楽曲理解と表現方法 1年間のまとめ		・選択した楽器の特徴や基礎的な演奏法を学ぶとともに、譜読みの能力を身に付ける。 ・練習曲や小品の演習を通して、器楽演奏の技術を高めるとともに、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する姿勢を身に付ける。 ・アンサンブル活動を通して、演奏の共有や相互評価を積極的に行い、感性を高める。 ・1年間の学習のまとめをする。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・楽曲の表現内容について理解を深めているとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。	・器楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができている。	・音楽性豊かな表現を追求し、主体的に学習に取り組もうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、実技試験、授業への取組、活動記録を総合的に判断して評価する。				
学習のアドバイス	1 実技演習が中心であるため、休まず授業に出席して能力の向上に努めたい。 2 自己評価や相互評価を積極的に行い言葉にして伝えることで、感性を高めたい。 3 定期考査では発表形式の実技試験とレポート提出を実施するため、学習した内容をまとめておくこと。				
教材費	2, 0 0 0円程度（選択した楽器の演習に必要な楽譜を各自で購入する。）				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽大学受験のための学習が主であるが、それ以外の生徒の選択も可能である。				

令和7年度 シラバス

教科名	音 楽	科目名	鑑賞研究（2年次）	単位数	2
授業形態	講義及び自己研究形式で授業を展開				
選んでほしい生徒	音楽Ⅰを履修していなくても履修できる。鑑賞することに興味があることが望ましい。				
科目の目標	音楽作品の鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目標とする。				
身に付けてほしい学力	1 音楽作品や演奏、作曲家などについて理解を深めることができるようにする。 2 音楽作品や演奏について、根拠を明確にして批評することができるようにする。 3 音楽や音楽文化を尊重する態度を養う。				
学習計画	単元・教材		学習のあらまし		
	【1学期】 鑑賞のオリエンテーション 拍子・調性・楽器の特徴について 古典派時代の名曲の鑑賞 作品・作曲家等の継続研究 【2学期】 ロマン派時代の名曲の鑑賞 民族的な音楽の鑑賞 作品・作曲家等の継続研究・中間発表 【3学期】 バロック時代及び近現代の名曲の鑑賞・ 作品・作曲家等の継続研究・発表		・鑑賞で感じたことを人に伝えるための手段を習得する。また様々な音楽的文化的理解していく。 ・名曲の鑑賞は、音楽史的なことを照らし合わせて鑑賞していく。 ・音楽的に民族性が強い地域の音楽を取り上げ、歴史的と音楽の繋がりを理解する。 ・作品、作曲家等の研究は、個別にテーマを決めて1年を通じて研究し最終的に講座内で発表する。		
評価の観点・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	・音楽作品や演奏、作曲家などについて理解を深められている。	・音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりしているとともに、音楽作品や演奏について、根拠を明確にして批評することができる。	・音楽や音楽文化を尊重し、主体的に学習に取り組もうとしている。		
	上記の観点を踏まえ、定期考査、授業への取組、提出物等を総合的に判断し評価する。				
学習のアドバイス	1 毎時間違う作品を鑑賞するので、休まないことを心掛けたい。 2 多角的に作曲家や作品を理解し、感想においては自分なりの言葉を使うことを大切にしたい。 3 定期考査では、学習した内容をしっかりと復習しておきたい。				
教材費	880円（税込み、音楽の鑑賞資料と基礎学習 教育芸術社）				
その他	1 何かの検定につながることはない。 2 音楽系への進学を考えている生徒に限らず、音楽を愛好する生徒が履修できるような科目になっている。				